

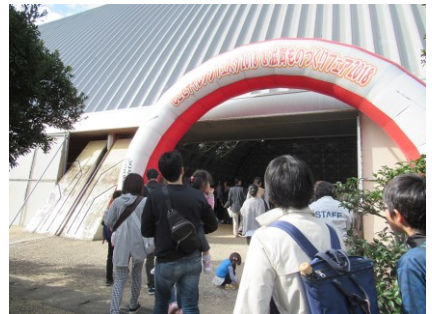
小中学生が多彩な仕事を体験！

滋賀ものづくりフェア 2018

11月3日（土）・4日（日）の2日間、竜王町総合運動公園（竜王町ドラゴンハットほか）で「滋賀ものづくりフェア



2018」（以下、フェア）が開催された。この催しは厚生労働省委託事業「平成30年度若年技能者人材育成支援等事業」の地域における技能振興の一環で、若者らに技能士が持つ技の素晴らしさを実感してもらうことや、技能継承の重要性について考えてもらうことを目的としている。



2018」（以下、フェア）が開催された。この催しは厚生労働省委託事業「平成30年度若年技能者人材育成支援等事業」の地域における技能振興の一環で、若者らに技能士が持つ技の素晴らしさを実感してもらうことや、技能継承の重要性について考えてもらうことを目的としている。

2つのイベントを合同で開催

「職人氣質」が楽しさを支える



フェアは5年前から、県の委託事業である「しごとチャレンジフェスタ」と合同で行われている。両イベントを主催する滋賀県職業能力開発協会の奥野常德事務局次長は「2つの



催しを一緒に開催することで、参加する子どもたちにより幅広い職業に触れてもらえるのは大きなメリットだと自負しています。また、体験教室をご提供いただいている各技能士団体や企業の皆さんは“半端なことはできない”という職人氣質もあり、非常に熱心に取り組んでくださっています。おかげで例年、県内各地から約5,000名もの方にご来場いただいております。アンケートで『丁寧に教えていただきました』といった好意的な感想がたくさん寄せられているんですよ。少子高齢化が進む近年は、どの業界も後継者の育成が難し

くなってきましたが、次代を担う皆さんにはぜひ、いろんな技の素晴らしさを感じていただき、進路選びの参考にしてほしいと思います」と語る。

まるで「小さな技能士さん」

本格的な体験が参加者を魅了

42の「しごと体験教室」および「ものづくり体験教室」のうち、38の教室は事前申し込み制。申し込みが定員数を上回ったものについては抽選が行われた。中でも毎年、高い人気を博しているのが「大工さんといっしょに家を建てよう！」（滋賀県建築組合 職業訓練法人八幡工匠会）だ。この体験教室では、木の軸を組み立てて建物を支える在来工法による住宅建築の一部を体験することができる。安全性を考慮して釘などは使用しないが、ゴーグルやヘルメットを身につけて足場に立つ姿はまさに“小さな大工さん”だ。「現在は（部材をあらかじめ工場加工しておく）



プレカット工法が一般的になっていますので、今回のように在来工法に触れる機会は珍しいのではないのでしょうか。もちろん、万が一のことがあってはいけませんから、常に数名の技能士がついてサポートするようにしています。私はもう50年ほどこの仕事に携わってきましたが、自分の建てたお宅のそばを通る時などにはとても誇らしい気持ちになりますよ。お客さんに必要としてもらえる限りは定年もなく、働き続けられますし。体験してくれた子どもたちにはまず、建物をつくる仕事の楽しさを肌で感じてもらいたいと思います」（同会 小川與志男会長）。

エプロン姿の子どもたちが真剣な表情で作業に取り組んでいたのは「プロと一緒に作る 巻き寿司教室」（滋賀県日本調理技能士会）だ。参加者は巻き簾の上に敷いた海苔の上に酢飯を広げ、かんぴょうや玉子などの具を乗せて巻いていく。指導する技能士に切ってもらって完成した後は、参加者自ら食べることができる。「巻き寿司は簡単そうで、意外と難しいんですよ。





お米が潰れるとおいしくありませんから、やさしく巻くことが大切。また、巻いた後に海苔が割れてしまうケースも多いので、そうならないコツなどもお伝えしています。この教室はもう4、5年続けていますが、自分で巻いた太巻きを食べるお子さんたちはみんな、いい顔をしてくれますよ。『めっちゃおいしい!』といった声が出るのを見ていると、僕たちも嬉しいです。一人前になるまでには厳しい修業も必要ですが、とてもやりがいのある仕事。参加者の中から将来、料理の道に進んでくれる子が出てくれば何よりですね」(同会 山岡和宏事務局長)。

子どもたちに幅広い“技”との出会いを提供した2日間のフェア。参加者の心と手にはしっかりと、ものづくりの喜びが記憶されたはずだ。